



朝からサイレンを鳴らして化学機動中隊と書かれた真っ赤な車両が三ノ輪あたりで追い抜いて行った。その脇ではわしわのばあさんが店の前をはき掃除をし、コンビにのビニール袋を下げた白人の親子がサンダル履きで歩いていく。三ノ輪から浅草にかけては最近白人系の旅行者がザックを担いでよく歩いているのを見るようになった。日本の宿が余りに高いのと、小さい宿がより日本を感じられて面白いのとで、急に観光客が路地裏にまで流れてくるようになったようだ。私だって外国に行ったら町の中の安くて小さな宿で普通の人の面白い生活にまぎれてみたいのは同じだ。だから、太った金髪のおとつあんと、やせた奥さん、ひょろつとした子供たちが、ザックや

ディパックでそんなところを歩いているのを見るのは自分のことのように楽しい。

そんな気持ちも、事務所についてパソコンを開けると、なんだか気持ちが萎えてしまって、いっぺんにしぼんでしまう。急に蒸し暑くなってなんだかぼんやりしていて、ここ数日新しい作業が加わって時間も無いのだが、なかなか作業にかかれぬ。気持ちが集中しないのだ。気がかりなことも多くて、一つをはじめると他のことが気になる、ほかのことをはじめるとまた別のことが気になる。そんなことをしていると何もできないまま終わってしまうのは明らかなのだから、余計に気持ちにゆとりがなくなってくる。まあ、いつもそうなのだが、なんでも軌道に乗るまでが大変だ。しかし、こんなことをいつまでやっても仕方がないような気もしてくる。やってもやっても金にならないことも多いから、何もそんなにがんばってやらなくていいなという気持ちもあって、どうも気持ちが落ち着かない。そろそろ今の仕事にも見切りをつけてもっと別のことでをはじめたほうがいいかもしれない。考えてみたら会社を作って15年たった。いつまでたっても遊んで暮らせるようにならないのははっきりしているけれども、時間を区切って働いて、時間を区切ってきっちり遊ぶ生活を目指すのか。20代から追いつづけてきた仕事と一度別れて、まったく別のことをはじめてもいいじゃあないか。色々な仕事をしたっていい。そんなことがしきりに頭をよぎる。確かにボランティアでたくさんの意味のある活動をするのは、まず自分が楽しいし、やっていきたいが、食うために金を借りるようなことをしてはいけぬ。自分の足元をしっかりとさせることも大切だ。

まあ、そんなことをうじうじと考えながら今日も一日終わってしまった。どうやって食っていこうかと考えている町会長なんてのもなんだか変だな。町の中にも色々な問題があって、たくさんの人たちと話す機会が多くなった。人の数と同じだけ違う考えがあり、違った感動や戸惑いや怒りや悲しみがあって、その違いのまま丸ごと受けて気持ちよく過ごせる場所を目指さなければならないのだけれどもそれはけっこう難しいものだということが今更ながらわかってきた。民主主義というものは、簡単なようで一番難しい。みんなが自由勝手に暮らすためには繊細で細かくて冷たくて面倒くさい色々な取り決めや、行動が必要で、そんな面倒なことをまったく感じさせないくらいの暖かく覆う人の輪、人の気持ちが欠かせない。そんなことを考えていると、今地域に一番必要なのは、一人一人の話をとことん聞く人ではないのかな。みんな話したいのです。話して話して話し疲れるくらい話す相手を求めているはずだと思います。話し足りない、聞き足りないことからたくさんの方が生まれてきます。時間を区切った役員会などではなくて、一日自由に出入り入ったりして、とことん話せる場所がほしいのです。天気だったらどこかの風通しのよい木の下でもいいのだが、そんなところがほしいものだと考えています。私だってちゃんと話しているのだからとふと思うのです。

<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>

TEL/FAX03-5600-0195 高村 哲 [GnomesJpn@aol.com](mailto:GnomesJpn@aol.com)

